

## ごあいさつ



会員・組合員・ご利用者の皆さまにおかれましては、日頃より東北労働金庫に対して、ご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

2020年度は、「新型コロナウイルス感染症」の拡大により、雇用不安や収入減少など私たちの社会、経済、家計は大きな影響を受けました。私たちは、「新型コロナウイルス感染拡大」で影響を受けた皆さまの生活・家計を支えることを最優先課題として、ご利用頂いている融資の返済計画に係るご相談や労金業態統一または自治体と提携した新規商品の取扱いを開始しました。さらに従来季節キャンペーン期間を「生活支援強化月間」と定め、アンケートを実施する等、会員の皆さまとともに組合員の方々に寄り添った運動・事業を行ってまいりました。

また、第6期中期経営計画の最終年度として、「深める・広める・高める」のテーマに基づき、「量から質への転換」を進め、労働金庫としての「持続可能なビジネスモデル」の構築をめざしてまいりました。結果、厳しい環境の中、預金は大きく目標を上回り、貸出金は目標まであと一步に迫る実績となりました。さらに老朽化店対応として、五所川原支店、長井支店を移転オープンすると

ともに、2019年台風19号により被災した郡山東支店の仮店舗での営業を再開することができました。これもひとえに会員の皆さまのご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

2021年度からスタートする第7期中期経営計画では、メインテーマとして「Rokin-NEXT-Stage 推進機構・会員・地域とともに歩み・貢献する『ろうきん Style』」を掲げ、「生活応援運動の充実」「財務・業務基盤の強化」「デジタル化対応と店舗政策の検討」「人材基盤の確立」の4つのテーマを掲げ取り組んでまいります。また、「マイナス金利政策の長期化」、「少子高齢化・人口減少・老後資金問題」に加え「新型コロナウイルス感染症」により、私たちを取り巻く環境は日々大きく変化しております。勤労者の方々の生活や家計の変化を敏感に捉え、そのニーズに的確にこたえることで、「誰一人取り残さない金融包摂」を実現し、福祉金融機関としての役割を発揮してまいります。そのためにも、皆さまに寄り添い続ける労金運動をより一層、強化・充実してまいります。

2021年3月11日、東日本大震災から10年が経過いたしました。当金庫が復興の拠点として掲げる大船渡支店3階には「東日本大震災復興展示室」を設置しており、2021年4月より一般公開を開始しております。この間の会員の皆さまのご支援に感謝申し上げますとともに、引き続き復興への取組みを継続してまいります。

ここに2021年3月期ディスクロージャー誌を作成いたしました。皆さま方に当金庫をご理解いただけるよう、事業内容・業績・今後の取組みなどを紹介しておりますので、ご一読いただければ幸甚に存じます。

2021年7月

理事長 いさご 砂金 良昭